年金基金だより

―― 平成 30 年度決算版 ――

表紙写真＝オーストリア／ザルツカンマーグート

旭化成企業年金基金

〒882-0847 宮崎県延岡市旭町2-1-3
電　話：0120-681-835（フリーコール）
：0982-22-2427/2428（直通）
Email：kikin@om.asahi-kasei.co.jp
ホームページ：http://www.asahikasei-kikin.or.jp

平成 30 年度決算のお知らせ

7月18日に開催されました第39回代議員会で、当基金の平成30年度の決算および財政検証結果が承認されましたので、その概要をお知らせいたします。

■平成30年度の市場概況について

平成30年度は、米中貿易摩擦や企業業績の先行き不透明感を背景として株価が大きく変動する環境でした。そのような環境下において、当基金の年金資産の運用利回りは、主にオルタナティブのプラスリターンによりプラス2.73%となりました。

年 金 経 理

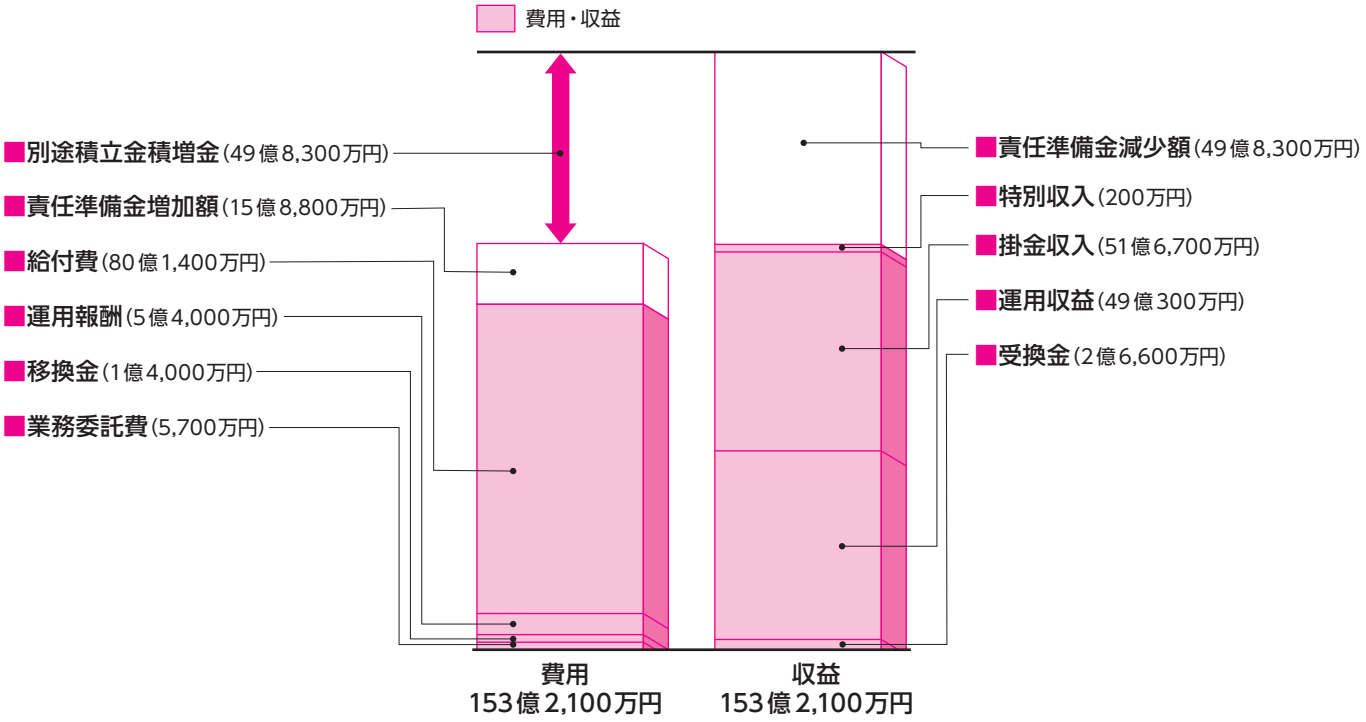
年金の給付や掛金の受け入れ、年金資産の管理運用などを行う経理です。

1 年間の収支状況（損益計算書）

49億8,300万円の別途積立金積増金が発生しました。

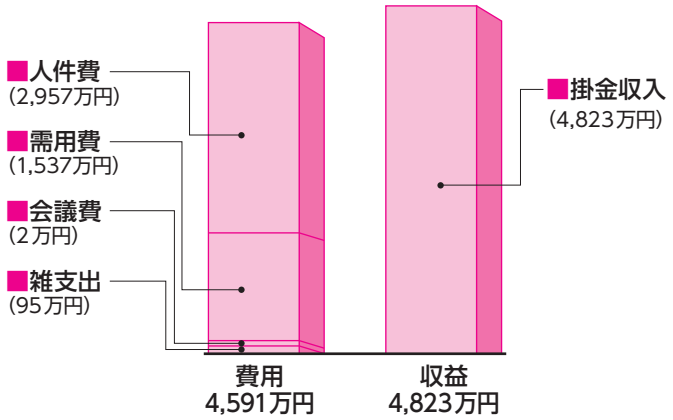
平成30年4月1日 ～ 平成31年3月31日

当年度決算（経常収支）では、支出総額が87億5,100万円に対し、収入は103億3,600万円となりました。財政計画上、この1年間に積み増しをしなければならない額（責任準備金）を確保し、49億8,300万円の別途積立金積増金が発生しました。



業 務 経 理

業務会計　基金を運営するための経費を処理する会計です。各種費用の見直しを行い経費削減に努めました。



■年金資産の積立状況について

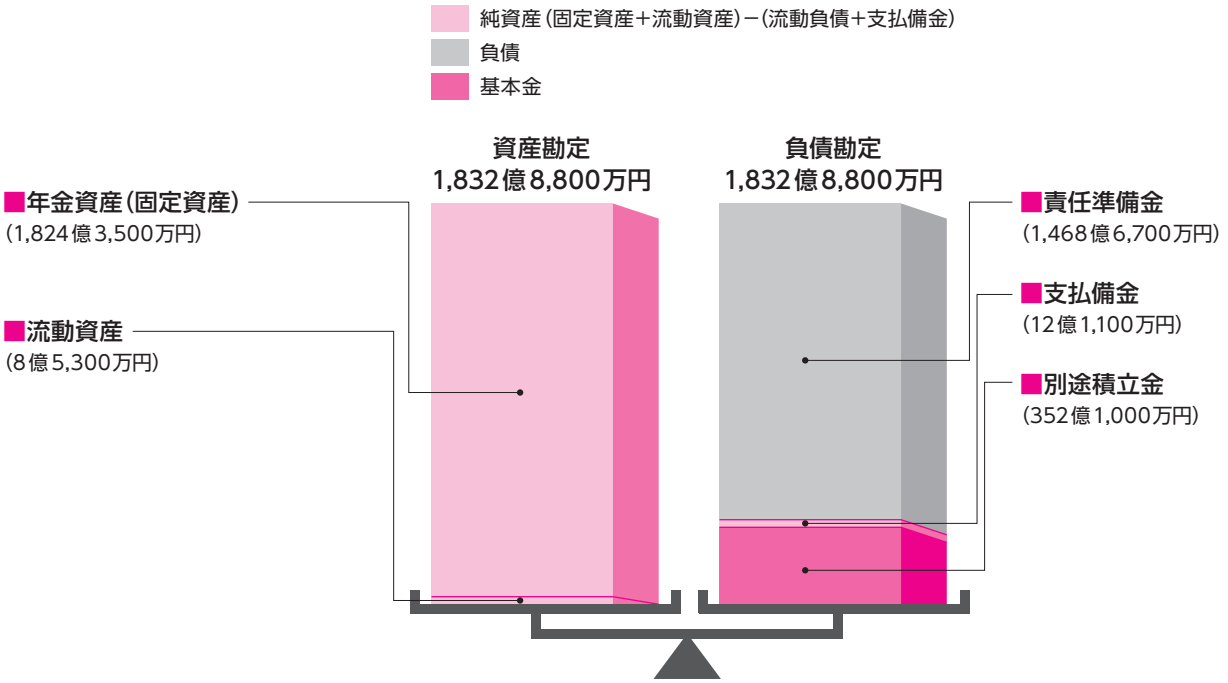
当年度の積立状況は、年金資産額（固定資産）が18億8,500万円増加し、1,824億3,500万円になりました。なお、別途積立金積増金を積み増したあとの別途積立金は翌年度に繰り越します。

資産と負債のバランス（貸借対照表）

年金資産（固定資産）は1,824億3,500万円となりました。

平成31年3月31日現在

当年度末における年金資産（固定資産）は、1,824億3,500万円となりました。一方、将来の年金給付のために積み立てられているべき責任準備金は1,468億6,700万円となっています。



基金では財政検証を実施しています

基金では、加入者・受給（権）者の皆さまの受給権保護のために、決算期ごとに年金資産の積立状況を２つの方法（継続基準、非継続基準）で検証しています。検証の結果、基準値をクリアしていない場合は、財政計画の見直し（変更計算）が必要になります。

■継続基準

将来の給付への備えに対して、財政計画上、現時点で保有しておくべき年金資産が積み立てられているかを検証します。

$$\frac{\text{純資産額}}{\text{責任準備金}} = 1.23 \text{（基準値：1.0以上）}$$

●検証結果

純資産額が責任準備金を上回っており、基準値をクリアしています。年金資産は順調に積み立てられており、掛金の見直しを行う必要はないことが確認されました。

■非継続基準

現時点で基金が解散したと仮定した場合に、加入者・受給（権）者への年金給付を賄う年金資産が積み立てられているかを検証します。

$$\frac{\text{純資産額}}{\text{最低積立基準額※}} = 1.07 \text{（基準値：1.0以上）}$$

●検証結果

最低積立基準額に対する純資産額の割合が、基準値である1.0を上回っており、基準値をクリアしています。積立水準を確保するための措置を行う必要はないことが確認されました。

※　最低積立基準額：現時点で基金が解散したと仮定した場合に、加入者・受給（権）者の加入期間に見合った給付を賄うために必要な年金資産。

データで見る決算

年金経理

年金の給付や掛金の受けいれ、年金資産の管理運用などを行う経理です。
資産額は時価により、表示しています。

■貸借対照表（平成31年3月31日現在）　（百万円）

資産勘定		負債勘定	
科目	決算額	科目	決算額
1．純資産			
流動資産	853	流動負債	0
（預貯金）	（427）	（未払運用報酬等）	（0）
（未収掛金）	（426）	（未払業務委託費）	（0）
（未収受換金その他）	（0）	（預り金）	（0）
固定資産	182,435	支払備金	1,211
（信託資産）	（156,405）	（未払給付費）	（1,206）
（保険資産）	（26,030）	（未払移換金）	（5）
計	183,288	計	1,211
2．負債			
		責任準備金	146,867
計	0	計	146,867
3．基本金			
繰越不足金	0	別途積立金	35,210
当年度不足金	0	当年度剰余金	0
計	0	計	35,210
総合計	183,288	総合計	183,288

用語の説明

流動資産
現金や普通預金などと、当年度分の掛金収入などで、入金が翌年度になる分。

固定資産
年金給付のために積み立て、運用を行っている年金資産。

流動負債
当年度分の費用のうち、支払いが翌年度になる分。

支払備金
年金や一時金の支払時期が来ているが、実際の支払いが翌年度になる分。

責任準備金
年金給付のために、現時点で積み立てていなければならない積立金の必要額。

業務経理・業務会計

基金を運営するための経費を処理する会計です。

■損益計算書（自平成30年4月1日　至平成31年3月31日）　（千円）

費用勘定		収益勘定	
科目	決算額	科目	決算額
役職員給与	15,649	掛金収入	48,228
役職員諸手当	12,628	雑収入	0
旅費	1,297		
代議員旅費	0		
需用費	15,373		
会議費	20		
雑支出	944		
代議員会需用費	0		
代議員会会議費	0		
当年度剰余金	2,317		
計	48,228	計	48,228

■繰越剰余・不足金の状況（平成31年3月31日現在）　（千円）

科目	決算額	科目	決算額
前年度繰越不足金	0	前年度繰越剰余金	19,421
当年度不足金	0	当年度剰余金	2,317
計	0	計	21,739

・業務経理の掛金は、会社が拠出をしています。
・不測の事態に備えて、最低でも年間支出総額の12分の3（3か月分）が次年度繰越剰余金として期末に残る予算としております。

■**損益計算書**（自平成30年4月1日　至平成31年3月31日）　（百万円）

費用勘定		収益勘定	
科目	決算額	科目	決算額
1．経常収支			
給付費	8,014	掛金収入	5,167
移換金	140	受換金	266
運用報酬	540	運用収益	4,903
業務委託費	57		
運用損失	0		
計	8,750	計	10,336
2．特別収支			
特別支出	0	特別収入	2
繰入金	0	受入金	0
計	0	計	2
3．負債の変動			
責任準備金増加額	1,588	責任準備金減少額	4,983
計	1,588	計	4,983
4．基本金			
繰越不足金処理金	0	別途積立金取崩金	0
別途積立金積増金	4,983	当年度不足金	0
当年度剰余金	0		
計	4,983	計	0
総合計	15,321	総合計	15,321

用語の説明

給付費
年金や一時金を給付した額。

掛金収入
加入者と会社からの掛金。

移換金／受換金
基金を脱退・再加入した人の年金原資を、企業年金連合会とやりとりした分。

運用報酬
資産運用を委託する信託銀行、生命保険会社、投資顧問会社に支払った手数料・報酬。

業務委託費
基金が業務の一部を委託した機関に支払った手数料。

運用収益
年金資産を信託銀行や生命保険会社、投資顧問会社などの運用機関で運用して生じた収益。

特別支出／特別収入
雑収入や掛金の徴収不足分など。

〈基金の業務概況〉

（平成31年3月31日現在）

●加入者数

計	12,493 人

●受給待期者数

裁定済待期者	121 人
未裁定待期者	206 人
合　計	327 人

●給付状況

老齢給付金	年金	8,215 件	6,015,374,500 円
	一時金	151 件	1,504,699,200 円
脱退一時金		67 件	149,047,700 円
遺族給付金		36 件	225,519,900 円

〈まだ年金を受け取っていない（受給待期者）方へ〉

平成31年度の第三年金の運用利率が**0.2%**に決定しましたので、お知らせいたします。なお、利率は下記により決定いたします。

利率：10年国債の応募者利回りの過去5年平均

※参考までに過去の利回りは右記の通りです。

平成30年度	0.3%	平成27年度	0.9%
平成29年度	0.5%	平成26年度	1.1%
平成28年度	0.7%	平成25年度	1.2%

平成30年度 資産運用結果レポート

運用利回りは2.73%　資産残高合計1,824億円

■平成30年度の当基金の運用結果

米中の貿易摩擦や企業業績の先行き下方修正を背景として、年度後半に株価が大きく下落も、その後、摩擦解消への期待感から株価は回復し、米国の利上げ慎重化により金利が低下し債券価格は上昇、為替は年間ではドル高、ユーロ安方向で推移しました。

その結果、当基金の年金資産運用利回りは2.73%となりました。今後も安全かつ効率的な運用に努めます。

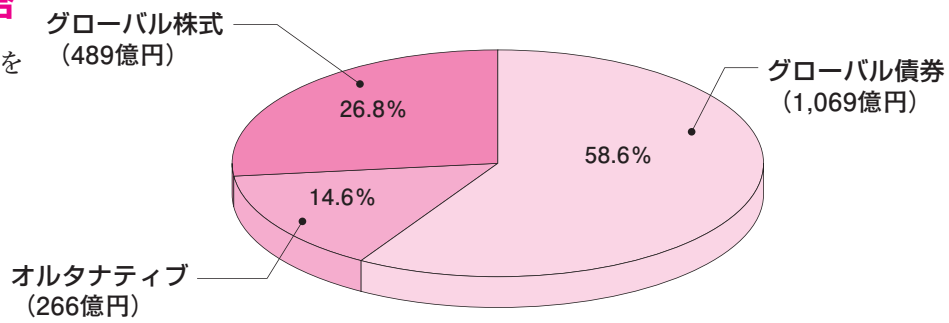
■平成30年度　資産構成別運用結果（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

	当基金の収益率(a)	市場の収益率(b)	差異(a)－(b)
資産全体	2.73%	4.75%	▲2.02%
グローバル債券	1.88%	2.00%	▲0.12%
オルタナティブ	8.50%	7.83%	0.67%
グローバル株式	1.88%	7.37%	▲5.49%

■平成30年度末　資産構成割合

各資産に分散投資してリスク分散を考慮しながら運用しています。

時価残高
1,824億円



基本ポートフォリオについて

当基金では、中長期的に必要収益を確保するために最適な資産配分である「基本ポートフォリオ」を策定し、これを遵守しながら資産運用を行っています。（2018年度に見直しを行い、2020年3月末まで下の新基本ポートフォリオへの移行期としています。）

基本ポートフォリオは制度変更や大幅な人員構成の変化など、前提条件の大幅変更がない限りは５年程度は維持し、長期運用を行います。

■新基本ポートフォリオ

グローバル債券	オルタナティブ※	グローバル株式
55%	20%	25%

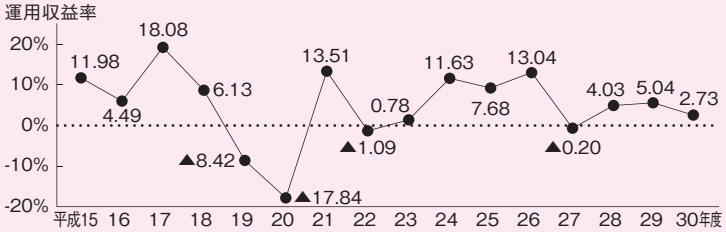
※オルタナティブとは債券、株式以外のことで、不動産、ヘッジファンドなどの資産。債券、株式との分散投資効果や収益源泉の多様化を期待しています。

基金の資産運用

年金資産は長期運用

資産運用は市場環境に影響をうけますので、単年度で見ると目標とする運用利回りを達成できない場合もあります。しかし、基金制度は長期間にわたって制度が継続するよう設計・運営されており、資産運用においても、中長期的に収益を確保することを目標としています。

■運用収益率の推移（平成15年度～平成30年度）



知っておきたい災害時の年金手続

もしも災害が起こったとしても、通常どおりに年金を受給できるよう、年金事務所等では災害時の対応を実施します。どんな対応がとられるのか、あらかじめ知っておくと安心です。

年金振込先の預金通帳・印鑑やキャッシュカードを失くしてしまったときには?

年金振込先の金融機関に現金引き出しの方法をご相談ください。その際、運転免許証など本人確認ができるものを持参してください。

指定の郵便局で年金を受け取るための書類を失くしてしまったときは?

災害救助法の適用地域*にお住まいの方には、「国民年金・厚生年金送金通知書」を再発行しなくても、お近くのゆうちょ銀行の店舗や郵便局窓口で年金を受け取ることができたり、指定の郵便局窓口で年金を受け取るのが困難な場合は、お近くのゆうちょ銀行の店舗や郵便局窓口で受け取ることができるなどの特例措置が状況に応じてとられます。

親戚の家に身を寄せているときには?

自宅が被災したために親戚の家に身を寄せることもあるでしょう。もしも、住所を親戚の家に変更する場合には、住民票を移したうえで、お近くの年金事務所に「年金受給権者住所変更届」を提出します(日本年金機構に個人番号(マイナンバー)を届け出ていれば省略できます)。

また、年金の振込先の口座を変更したいときには、お近くの年金事務所に「年金受給権者受取機関変更届」を提出します。

年金証書や年金手帳などを失くしてしまい、基礎年金番号がわからないときには?

基礎年金番号がわからなくても、年金の相談や手続を行うことができます。お近くの年金事務所で、ご本人であることが確認できれば、年金証書等を再交付してもらえます。運転免許証など本人確認ができるものや、市区町村が発行した被災証明をお持ちの場合は持参します。

もしも、身分証明書となるものをすべて失くしてしまったとしても、年金のご相談や手続は、ご本人であることを確認できれば対応してもらえます。市区町村が発行した被災証明をお持ちであれば、忘れずに年金事務所へ持参しましょう。

現況届や生計維持確認書などを期限までに提出できないときには?

現況届は、年金受給者の方が引き続き年金を受給する権利があるかを確認する届書です。毎年、誕生月の月末が提出期限となっています(日本年金機構に個人番号(マイナンバー)を届け出ている方は省略できます)。また、生計維持確認届は、引き続き加給年金額等の加算対象となるかどうかを確認する届書で、毎年、誕生月の月末が提出期限となっています。

いずれも提出しないと、年金や加給年金額等の支払いが一時差し止めになる場合がありますが、災害救助法の適用地域*に住んでいる場合には、状況に応じて提出期限が延長されるなどの措置がとられます。

なお、被災によって年金の請求方法や年金額が変わることはありません。

*災害救助法とは、災害の際に応急的に必要な救助を行うための法律で、どの地域に適用するかは都道府県が決定します。

基金事務局より

平素は当基金の運営にご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

2019年4月より理事長を引き継ぎました、人事部長の西川と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成30年度は、米中貿易摩擦や企業業績の先行き下方修正を背景として年度後半に株価が大きく下落するも、為替はドル高・ユーロ安方向で推移しました結果、当基金の年金資産運用利回りは2.73%となり、年金財政は引き続き健全な状態を保っております。

今年度も市場の状況を注意深く見守りながら、長期的に安定した運用・運営を心がけて、職員一同、努力してまいります。引き続き、基金の状況をお伝えしていきますので、今後ともご理解の程、よろしくお願い申し上げます。

旭化成企業年金基金　理事長　西川 知

サランラップ®

M字の刃になって、もっと切りやすい!

サランラップ

®は登録商標を示します。

AsahiKASEI
旭化成ホームプロダクツ